

東北・福島+埼玉=福の玉 が生まれ、ゆっくりふくらんでいきますように...

9月
& 10月

福玉便り

ふ く た ま だ よ り

通巻 116 号

発行：『福玉便り』編集委員会 NPO 法人埼玉広域避難者支援センター・(一社) 埼玉県労働者福祉協議会

協力：生活協同組合コープみらい埼玉県本部

連絡先：NPO 法人埼玉広域避難者支援センター 〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤 6-4-2 1ときわ会館 1F TEL0120-60-7722

この絵は、福島市岡部にある小さな農家の小屋とその脇に見事に咲いたひまわりをモデルに描いた絵です。震災及び原発事故のあった2011年の夏に描きました。正直、手持ちの放射能の線量計は約3マイクロシーベルト/hありました。そんな環境にも関わらずひまわりは力強く大地に根を張り太陽に向かって花開いている姿に感動しペンを走らせました。

しばらくして手持ちの線量計がピーと音がなり充電が切れてしまいました。私も長居するのは良くないと思いその日は撤収しました。

しばらくの間は、数日に一度その場所を通って絵を描きましたが、ある日行った時、その小屋とひまわりに青いビニールシートがかけられ、その脇に除染中の為立ち入り禁止と立て看板がありました。ここも放射能のガレキになってしまうのかと思い何故か寂しい気持ちになりました。

この絵も福島の在りし日の原風景を描いたもので、懐かしさを感じて頂ければ幸いです。 オオハシワタル



福玉相談センターでは、**11月下旬にさいたま市内にて交流会**の開催を予定しています。多くの皆様にご参加いただけるよう、現在内容の検討を進めているところです。詳細につきましては、次号の「福玉便り」にてご案内申し上げます。どうぞご期待ください。

眠れない日が続いているとき 気にかかることがあるとき 困っていることがあるとき
理由をはっきりしないけれど、誰かに話を聞いてもらいたいとき
いつでも気軽に電話ください。



福玉相談センター 電話：0120-60-7722 (フリーダイヤル)

火曜日・水曜日・木曜日(9:30~16:30)

電話で相談しづらい方はメールでもどうぞ。メール：fukushima_soudan@yahoo.co.jp

**8/12-14は
お休みです。**

福玉便り7&8号(115号)の記事に下記のとおり誤りがありました。

お詫びして訂正いたします。 P2【ひろば】(誤)静岡のキャンプ場 (正)山梨のキャンプ場

浜通り視察レポート

浜通りを訪れるたびに、その変容ぶりに驚くことがあります。「復興」を謳った福島イノベーションコースト構想への企業進出は、本当に地域の方々の望んでいる「復興」なのか、と疑問を抱きます。最近、浜通り訪れ、いろいろな施設取材しました。その一部をお伝えします。

● 檜葉町

檜葉町は、「廃炉研究拠点」「廃炉ビジネス拠点」として2015年から稼働している工業団地があります。檜葉遠隔技術開発センター（NARREC／日本原子力研究開発機構）をはじめ、さまざまな企業が立ち並び、その中には国内初となる水酸化リチウムの製造工場、豊通りチウム檜葉工場や、住鋳エナジーマテリアル株式会社などもあり



豊通りチウム檜葉工場

ます。

この2つの工場ではリチウムやニッケルを扱い、電気自動車用のバッテリーを製造しています。その元となる鉱物採掘はフィリピンやアルゼンチンなどで行われていますが、実は、反対の声をあげる地元の人々への弾圧、あるいは生活を脅かす環境破壊や人権侵害が深刻な問題になっているのです。

例えば、今年6月には、環境NGOのFOE Japanが住友金属鉱山に対し、「フィリピン・パラワン州におけるニッケル採掘・製錬事業の停止を」求める要請書（個人署名34カ国1571人、団体署名40カ国90団体）を提出したばかりです。採掘

国に環境破壊・人権侵害を強いるビジネスが、原発事故の被害の土地で行なわれるという構造があります。電気自動車は、二酸化炭素を排出しないため、環境に優しいとされていますが、こういったバッテリーの製造や廃棄、電力の発電方法によつては、大きな問題があることを、考えさせられます。

● 大熊町

原発に近づいていくと、放射線量は車内でも上がり、国道6号沿いで、最高で毎時2・2マイクロシーベルトを記録した場所もあります。



AI野菜工場

りました。車外に出ればもっと高いところもあります。



大熊中央産業拠点には、6月14日にオープンしたばかりの農業複合施設「FUTURE NEAT MAKERS」がありました。キウイ園、バナナ園、カフェテラス、ガラス張りのAI野菜工場も。親会社の事業は幅広く、安倍政権の海外発信事業を担ってきた会社です。

JR大野駅の前にオープンしたばかりのCLEVA（クレバ）おおくまは、「復興のシンボル」となる産業



CLEVA (クレバ) おおくま

交流施設として清水建設が設計。もともと国道6号沿いにあった中間貯蔵事業情報センターがここに移転し、隣接して、日本原子力研究開発機構（JAEA）の事務所、2階には原子力規制庁の事務所、3階には東京電力ホールディングスが入居しています。

● 浪江町

以前、本紙でもお伝えしたことがあります。福島県浜通りは、軍事技術の優位性をめぐる世界の競争と無関係ではなく、人工知能（AI）、無人機（ドローン）、極超音速兵器、量子技術、高出力レーザーなど、戦争が変容し、先端技術は軍事と常に隣り合わせです。「国家プロジェクト」と銘打つF・R・E・E（エフレイ）の建設、浪江町駅周辺の開発計画など、浪江町では工事が進んでいます。浪江町請戸小学校の駐車場には2024年から大き



なコンクリート製の格納庫が設置され、中には災害用自律型ドローンが収納されています。ドローンからのライブ映像と宇宙から河川をモニターし続ける衛星データを連携させることで、津波や豪雨から命を守るためだそうです。

このドローンの開発は、北海道札幌の企業、(株)會澤高圧コンクリートが担っています。同社は研究開発型生産拠点『福島 RDM センター』を福島県浪江町に設立。浪江町とも協定を締結し、国の「自立・帰還支援雇用創出企業立地補

助金」でドローンを開発しました。この補助金は、最大で30億円(例外的に50億円)の補助が出るそうです。同社ウェブサイトでは、「防衛予算の戦略再配分」

をキャッチコピーに、自社の自己治癒コンクリート製品の技術を、防衛施設学会で展示したことを紹介しています。滑走路、湾口施設

弾薬庫、地下シエルターなど、防衛施設にとってコンクリートは重要な素材です。「自己治癒」の能力で軍事費削減ができ、結果的に防衛予算の戦略再配分が可能だと語られています。

● 駅周辺の再開発

全国各地で再開発問題があります。浪江駅周辺の規模は別格です。小さな木造駅舎はもうすぐ取り壊され、近隣の更地を含めた近未来化計画が着々と進んでいます。オリンピックでも万博でも、飯館村でも名前の上だった隈研吾氏がデザインし、交流・商業施設、

共同住宅がアーケードで繋がるように作られるそうです。原発事故で廃材になった屋根瓦、大堀相馬焼を「アップサイクル(再利用)」し、展望テラス「なみえルーフ」からは町を一望でき、「撮影スポット」にするといえます。

浪江・小高原発の建設予定だった土地に作られる牧場では、1300頭の牛を飼う予定で、日本最先端の技術を使い、搾乳、除糞の体調管理などを行うとのこと。令和7年度中に完成予定です。

浜通りの変貌ぶりに「ついていけない」という声もよく聞きます。原発事故がもたらした被害に加え、復興における政界の草刈場になっていないか、と思わされます。皆さんはどう感じているのでしょうか。(編集部・吉田)

「彩の国会議」は、埼玉県および埼玉県社会福祉協議会等と連携し、首都圏災害を含むさまざまな災害時において、埼玉県内の災害支援団体やボランティアの活動調整、防災・減災に関する技能向上、団体の協力体制強化、各種研修活動の推進を目的としたネットワークです。2018年12月8日に設立され、埼玉県の災害中間支援組織として位置づけられました。私たちも情報共有などを行ってきた方々・団体がその活動の中心を担ってこられました。新型コロナウイルス感染症流行時の活動制限を経て、ネットワーク強化に向けて再出発のような会議が先日開催されたので、福玉支援センターも参加してきました。今回、新たに参加する団体も多く、災害支援に対して関心の高まり・広がりを感じました。これから定期的に研修等を行い、学び合いと情報共有による「顔の見える関係づくり」に取り組んでいくそうです。

「彩の国会議」は、埼玉県および埼玉県社会福祉協議会等と連携し、首都圏災害を含むさまざまな災害時において、埼玉県内の災害支援団体やボランティアの活動調整、防災・減災に関する技能向上、団体の協力体制強化、各種研修活動の推進を目的としたネットワークです。2018年12月8日に設立され、埼玉県の災害中間支援組織として位置づけられました。私たちも情報共有などを行ってきた方々・団体がその活動の中心を担ってこられました。新型コロナウイルス感染症流行時の活動制限を経て、ネットワーク強化に向けて再出発のような会議が先日開催されたので、福玉支援センターも参加してきました。今回、新たに参加する団体も多く、災害支援に対して関心の高まり・広がりを感じました。これから定期的に研修等を行い、学び合いと情報共有による「顔の見える関係づくり」に取り組んでいくそうです。

に参加してきました。



場所 埼玉県危機管理防災センター
写真提供:「彩の国会議」代表幹事 とよしま様

(編集部・薄井)

各地の 交流会など

新型コロナウイルスの感染拡大により、交流会の流動的な状況が続いておりました。各交流会の感染対策については連絡先にお問い合わせください。なお、各交流会に参加される方は、引き続き体温測定の上でご参加いただき、参加中は消毒や換気にご協力ください。

①	加須市	双葉町民によるボランティアカフェ	090-5356-8778 (鵜沼さん)
⑥	加須市	オバトン	090-6526-8560 (藤井さん)
⑧	上尾市	東日本大震災に咲く会ひまわり	080-3091-6215 (橘さん)
⑩	熊谷市	くまがや結の会	090-7661-9236(林崎さん)
⑱	川口市	ひまわりの会	080-5431-0123 (島田さん)
⑲	さいたま市	さいがい・つながりカフェ	080-5532-7380 tunagari.saitama@gmail.com
⑳	ふじみ野市	おあがんなんしょ交流会	090-5345-8408 (松館さん)
㉒	川越市	ここカフェ@川越	070-5080-4494 (鈴木さん)
㉓	さいたま市	玉兎の会	090-6128-1948 (小林さん) https://gyokutonokai.wixsite.com/2018

㉒ここカフェ@川越

皆様のご予定を調整しながら毎月交流会を行っています。場所はJUNホール、10時～です。pororon311@gmail.com、070-5080-4494 (鈴木さん)

①双葉町民によるボランティアカフェ

9/24 (水) 10/22 (水) 13:00～15:00
双葉町社会福祉協議会加須事務所
090-5356-8778 (鵜沼さん)

⑥オバトン

キャッスルきさいにて食事交流会を10時～14時に行います。先日、ぬり絵の展示を行いました。市民の方からも好評でした。ぬり絵や合唱への参加もお待ちしております。
9/9 (火)、9/25 (木)、10/23 (木)
10:00～14:00 キャッスルきさい
090-6526-8560 (藤井さん)

⑲さいがい・つながりカフェ

9/11(木)、9/25/(木)、10/23(木)
11:00～15:00WithYou さいたま和室
※前号に8/21 (木) と書いていましたが8/28 (木) の間違いでした。訂正します。
080-5532-7380、tunagari.saitama@gmail.com

東京電力 福島第一原子力発電所事故 原子力損害賠償・廃炉等支援機構

原子力損害賠償に関する個別相談会・請求書作成支援

- 開催日 令和7年9月20日(土) 10:00～16:00
〔休憩 12:00～13:00〕

- 会場『ウエスタ川越』2階 会議室1

住所：埼玉県川越市新宿町1-17-17

- ★ JR川越線、東武東上線『川越駅』西口より徒歩5分
- ★ 西武新宿線『本川越駅』より徒歩15分

- ◎ 有料の専用駐車場はございますが、公共交通機関をご利用ください

- 弁護士による個別相談 (予約制)

- 原発賠償に詳しい弁護士が原子力損害賠償全般のご相談に対応いたします。
- 賠償請求で困っている方は、ぜひご相談ください。

- 行政書士による請求書作成支援 (予約制)

- 第五次追補等に関わる請求書の作成をお手伝いいたします。
- 請求書の記入はご自身でお願いします。

- ※ 1組1時間。枠に空きがあれば予約なしでもご相談・作成支援ができます。当日、15時までに、直接会場へお越しください。

- 専門家へご相談ください。

- ・ 請求漏れがないか相談したい
- ・ 住居確保にかかる費用の賠償請求について相談したい
- ・ ADRの申立てについて相談したい など

- 連絡先

- 事前予約はこちらから

予約ダイヤル 0120-330-540

【受付時間】9:30～17:00 月～金 (祝休日を除く)

- ご来場が難しい場合は、電話相談をぜひご利用ください!

電話相談ダイヤル 0120-013-814

【対応時間】10:00～13:00、14:00～17:00

月～金 (祝休日を除く)

- ・ 行政書士による電話での情報提供

www・弁護士による電話相談:

【事前予約制】祝日を除く毎週火・木 10:00～13:00

- ・ オンラインでのご相談も可能

無料 東京電力 福島第一原子力発電所事故の
**原子力損害賠償に関する
個別相談会・請求書作成支援**

日程
9月20日(土)

会場 埼玉県 川越市
『ウエスタ川越』※詳細は要約

予約優先 **弁護士による個別相談**
賠償請求に詳しい弁護士が原子力損害賠償全般のご相談に対応いたします。
賠償請求でお困りの方は、ぜひご相談ください!
時間 10:00～16:00 (休憩12:00～13:00)

予約優先 **行政書士による請求書作成支援**
第五次追補等に関する請求書の作成をお手伝いいたします。
請求書の記入はご自身でお願いします。
時間 10:00～16:00 (休憩12:00～13:00)

※相談時間、枠に空きがあれば予約なしでもご相談・作成支援ができます。
当日、15時までに、直接会場へお越しください。

事前予約
☎ 0120-330-540
受付時間 9:30～17:00 月～金 (祝休日を除く)

WEBでも予約OK! 折り返し電話にて予約が確定!
原子力損害賠償・廃炉等支援機構